

トップが綴る

私の人生を
支えた信条

PHP研究所〔編〕

自己流から一流へ

清川メッキ工業(株)

代表取締役会長

清川 きよかわ

忠 ただし

当社は二〇二三年で創業六十年となります。めっき全般の加工を行っていますが、一般に言われる装飾めっき、機能めっきとして、電子部品、スマートフォン、パソコン、電化製品や自動車用及び精密機器の半導体、医療機器としての特種めっきなどが多くを占めるようになってきました。めっき用の機械は市販されておらず、加工の大半は専用機で行い、それらはすべてオリジナルとして製作しなければなりません。また、製品の種類、大きさ、金属材料の種類、めっきの種類により、それぞれに合わせた専用機を製作する必要があります。そこで当社は創業より、めっき前工程、めっき工程、後工程、検査工程に至るまで機械類のほとんどを自社設計、自社開発で行っています。

まずは試作から始まり、手動機により量産に向けた半自動機を製作し、さまざまな問題を解決すると、次に全自動機、そしてライン化まで行います。試作機から全自動機を製

作するまで、品質、コスト、納期などの課題を一つひとつ解決しながら、お客様の要望にもとづいて進めています。特に電子部品、半導体といった部品は小型化に特化したモノづくりとなるため、あらゆる面で高い精度を持った専用機が必要になります。当社も省エネはもちろん、小型化することにより、材料は少なく大きな機能を持つ小型部品に特化した専用機を開発し、ナノ単位めっきへの対応も可能にできました。

地球環境が悪化している現状を受けて、SDGsへの取り組みが世界中で推進されています。自動車であればハイブリッド車や電気自動車、通信機であればスマートフォンやパソコン、電化製品のように、大きな機能を持ちながら、省資源かつ省エネ化された商品が求められています。当社もこうした時代の流れを避けては通れません。

三、四十年ほど前、東京・浜松町の貿易センタービルのモノレール乗り場にくくエスカレーターを上げると、その前方の壁に掲げられていた言葉が目にとまりました。「自己流から一流へ」。とても良い言葉です。もともと、流派なるものは存在せず、自己流でつくられた製品が長く使われ、愛され、喜ばれ、やがて一流といわれるようになります。一流ブランドとは、切磋琢磨し、励まし、そして努力をした者が勝ち取るものなのです。当社もモノづくり、企業づくりに努め、特に社員の技術向上のため、めっき技能検定、国家試験、ISO規格認定、現代の名工といった技能者を生む資格取得などに努めています。